

平成25年度上期の  
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと  
当面する課題について

平成25年7月24日  
一般社団法人Jミルク

# 1. 地域別生乳生産量の動向

## 【生乳生産量予測の前提】

- ・都府県及び全国の予測値は、指定団体ブロック別の生乳生産量予測値を合算して算出。
- ・指定団体ブロック別の予測値は、過去の生乳生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や乳牛頭数等を組み込んだ予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。
- ・平成 25 年度の気温は、平年並で設定している。

表 1：平成 25 年度上期 地域別生乳生産量（見通し）

(千トン)

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	650	100.1%	329	101.0%	322	99.3%
5 月	671	100.0%	343	101.0%	328	98.9%
6 月	639	99.5%	334	100.8%	305	98.2%
7 月	632	98.1%	336	99.4%	296	96.7%
8 月	615	97.6%	331	99.1%	284	95.9%
9 月	596	98.7%	320	100.6%	276	96.5%
第 1 四半期	1,960	99.9%	1,005	100.9%	955	98.8%
第 2 四半期	1,842	98.1%	986	99.7%	856	96.4%
上期	3,803	99.0%	1,992	100.3%	1,811	97.6%

## 【生乳生産量の見通し】

直近 5 月までの生乳生産量は、北海道では前年度をやや上回って推移、都府県においても前年度をやや下回る程度で推移している。

しかしながら、今後は、北海道・都府県ともに、これまで生産量を支えてきた主力の 2～4 歳の飼養頭数も前年度を下回って推移することが見込まれており、第 2 四半期では北海道においても、乾乳牛の増加等の影響も加わり、前年度を下回って推移するものと見込まれる。

なお、前回 5 月時点の予測に比べて、特に北海道において、飼養頭数の減少等により生産量が下回る見通しとなっている。

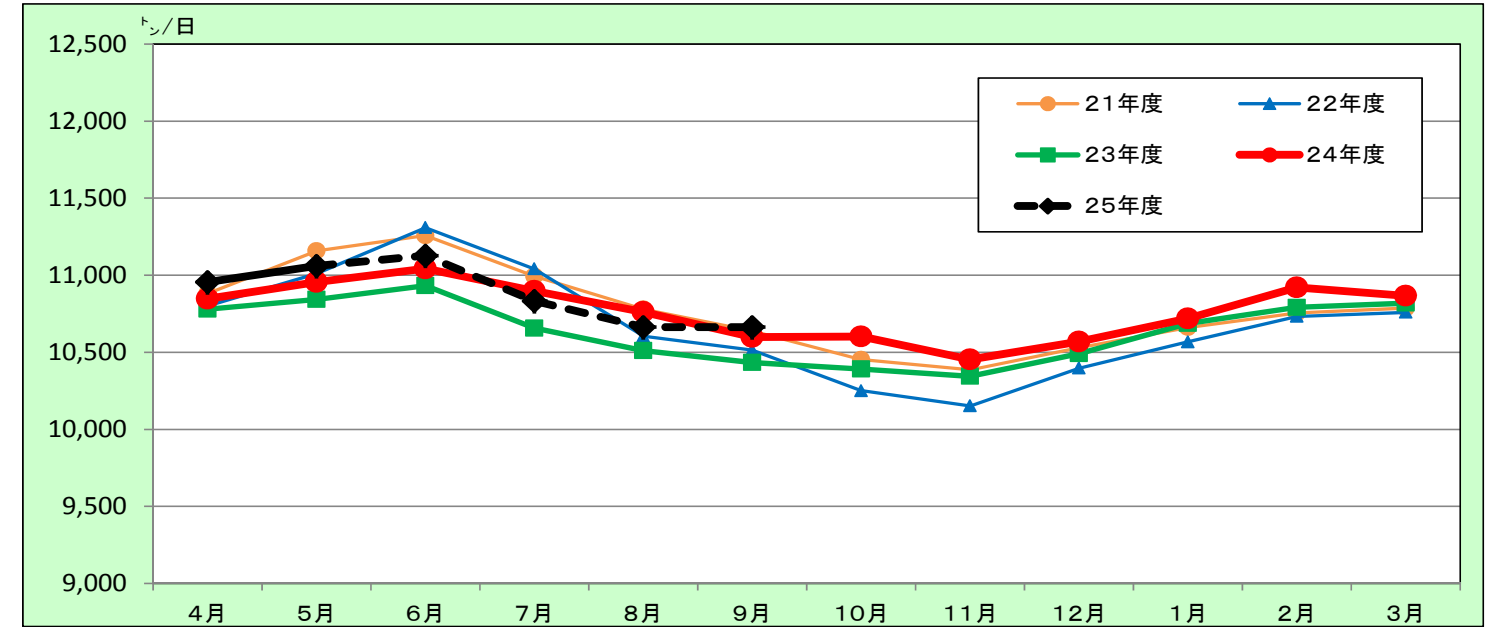
■前回 5 月公表時の予測との差異（上期計）は下記のとおり。

「全国」：▲24 千 t（前年比 ▲0.6%）

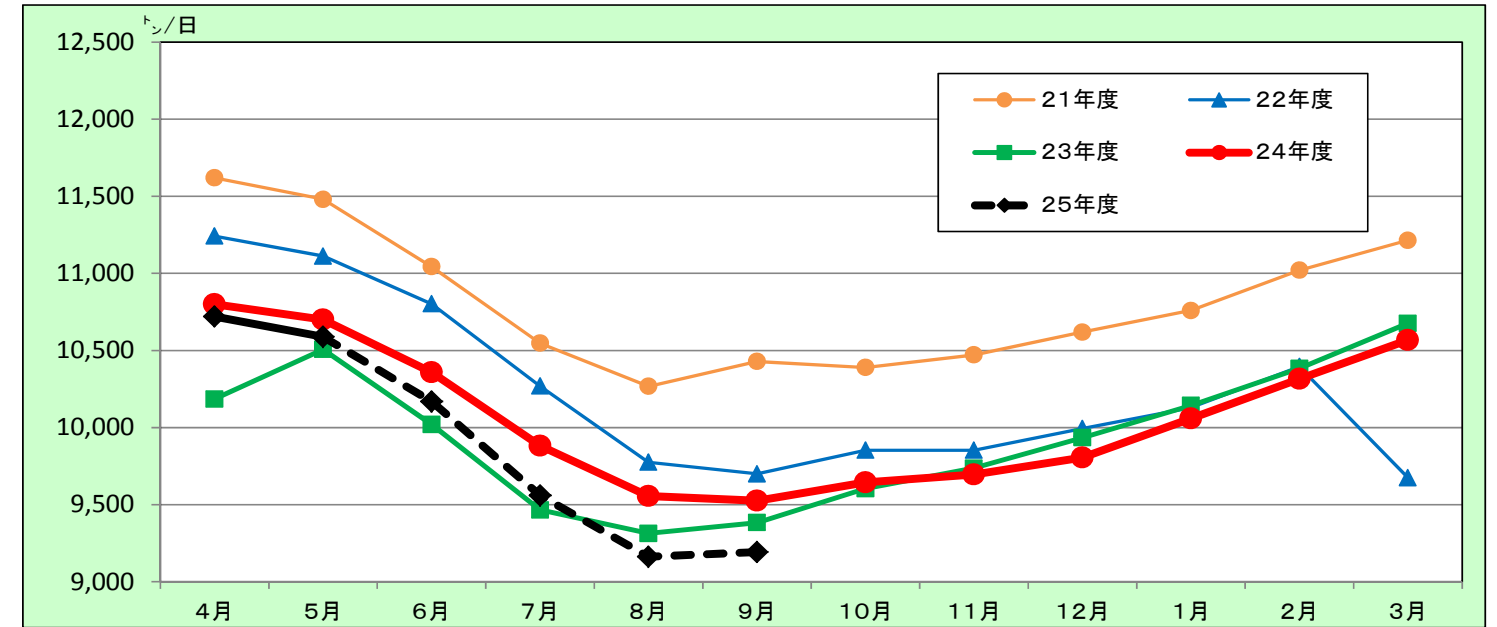
「北海道」：▲21 千 t（前年比 ▲1.0%）

「都府県」：▲3 千 t（前年比 ▲0.2%）

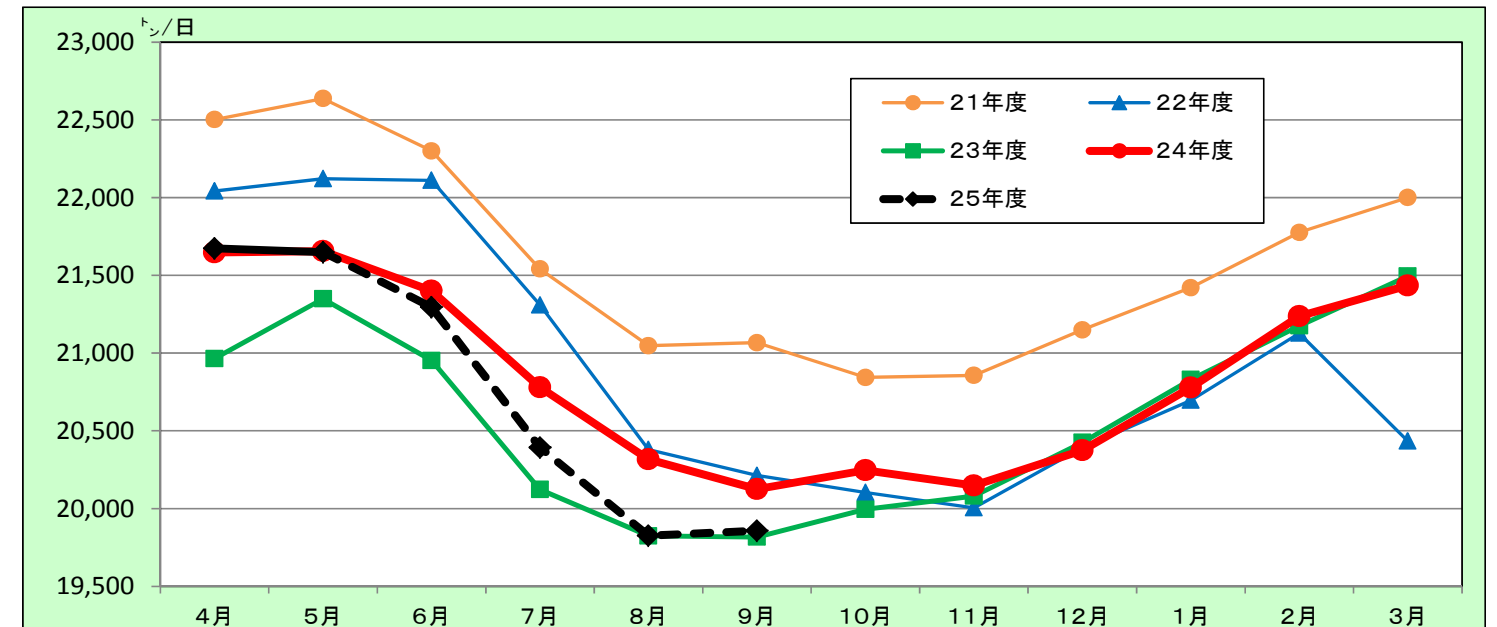
グラフ 1-1：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-2：都府県の生産量（日均量）



グラフ 1-3：全国の生産量（日均量）



## 2. 牛乳等生産量の動向

### 【牛乳等生産量予測の前提】

- ・各々の予測値は、過去の生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や平日日数等を組み込んだ予測モデル（ARIMA モデル）による推計値を基本に算出。
- ・平成 25 年度の気温は、平年並で設定している。

表 2：平成 25 年度上期 牛乳等生産量（見通し）

(千kl)

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	393	99.3%	246	99.4%	11	82.9%	28	91.9%	109	103.4%	90	106.3%
5月	424	100.1%	265	100.2%	11	78.8%	29	92.0%	119	104.7%	91	102.3%
6月	423	100.0%	263	99.9%	10	90.6%	29	94.6%	120	102.5%	90	104.6%
7月	429	98.7%	260	98.9%	11	93.4%	31	93.5%	127	100.3%	91	105.0%
8月	410	97.7%	239	98.0%	11	96.5%	31	93.3%	128	98.4%	86	103.9%
9月	435	98.1%	268	97.7%	11	95.3%	30	93.9%	125	100.5%	86	103.1%
第1四半期	1,240	99.8%	774	99.8%	32	83.7%	87	92.8%	347	103.5%	271	104.4%
第2四半期	1,273	98.2%	767	98.2%	33	95.1%	93	93.6%	380	99.7%	263	104.0%
上期	2,513	99.0%	1,541	99.0%	65	89.2%	179	93.2%	728	101.5%	534	104.2%

### 【牛乳等生産量の見通し】

直近5月までの牛乳等の生産量のうち、「牛乳」は前年度と同程度かやや下回る程度で推移、「乳飲料」と「はっ酵乳」は前年度を上回って好調に推移している。

なお、「牛乳」「加工乳」「成分調整牛乳」「はっ酵乳」については、前回5月時点の予測に比べて更に生産量が減少する見通しで、結果、牛乳類全体でも前回の予測を下回る見通しである。

今後、第2四半期においては、「牛乳」が前年度を下回るものの、「乳飲料」と「はっ酵乳」については、やや伸び率は低下するものの、引き続き好調に推移するものと見込まれる。

■前回5月公表時の予測との差異（上期計）は下記のとおり。

「牛乳類」：▲5千kl（前年比 ▲0.2%）

「牛乳」：▲3千kl（前年比 ▲0.2%）

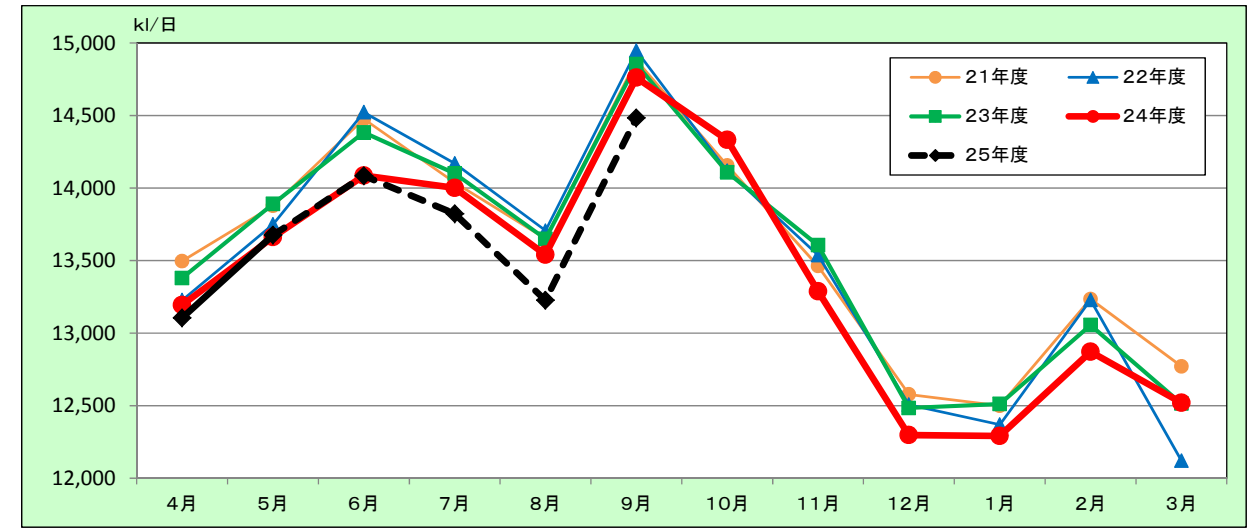
「加工乳」：▲5千kl（前年比 ▲6.4%）

「成分調整牛乳」：▲4千kl（前年比 ▲2.2%）

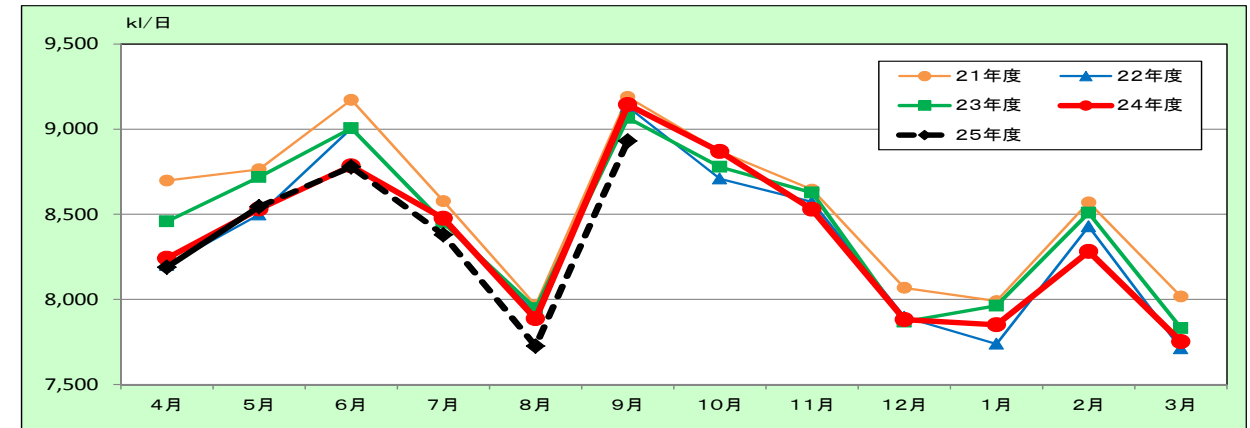
「乳飲料」：+7千kl（前年比 +1.0%）

「はっ酵乳」：▲12千kl（前年比 ▲2.3%）

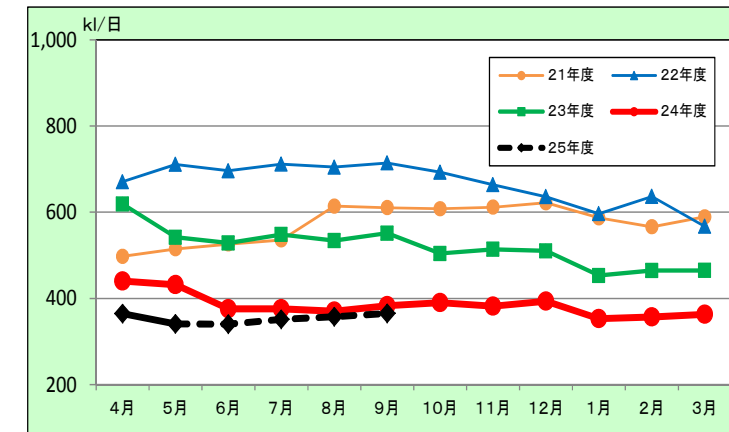
グラフ 2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



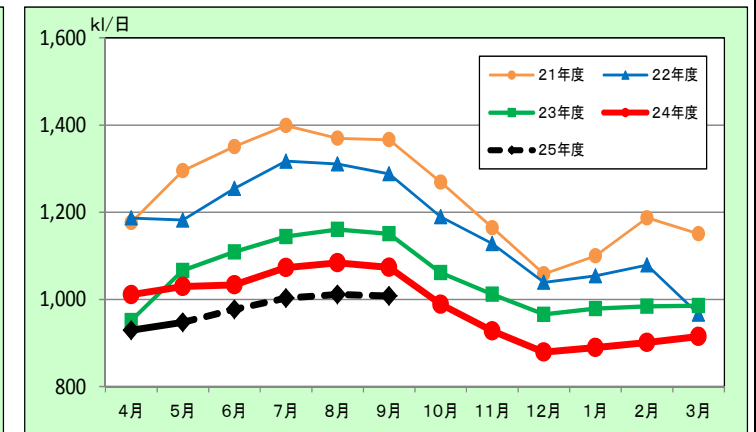
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



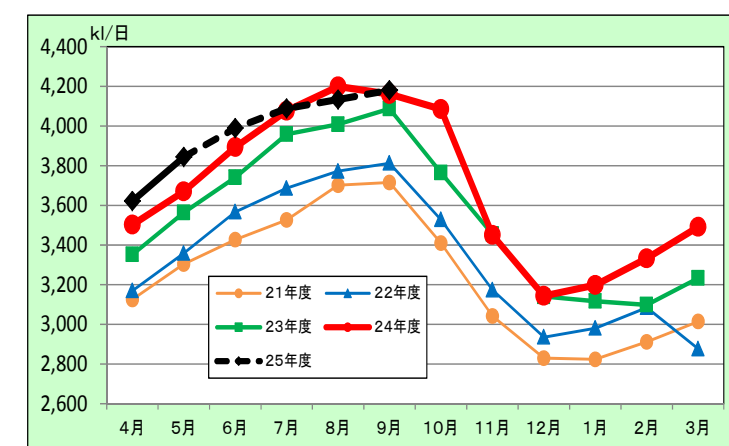
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



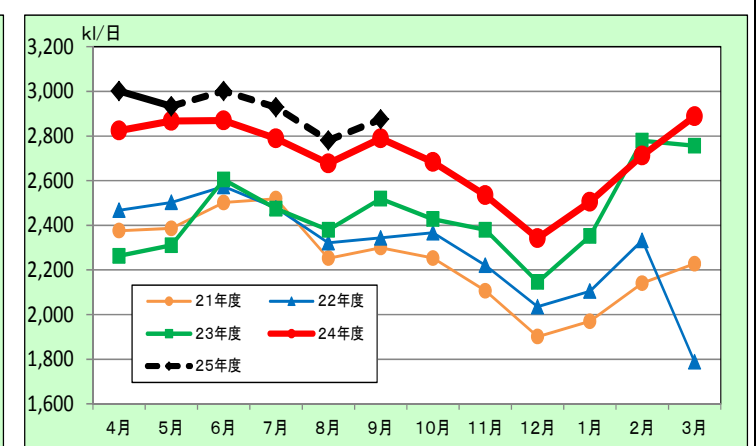
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



### 3. 用途別処理量の動向

#### 【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成25年度上期 生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

(千トン)

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	650	100.1%	5	98.0%	645	100.1%	324	98.9%	321	101.4%
5月	671	100.0%	5	97.8%	666	100.0%	346	98.8%	320	101.3%
6月	639	99.5%	5	99.5%	634	99.5%	348	99.2%	286	99.9%
7月	632	98.1%	5	98.1%	627	98.1%	341	98.0%	286	98.3%
8月	615	97.6%	5	97.5%	610	97.6%	323	97.1%	287	98.2%
9月	596	98.7%	5	98.6%	591	98.7%	351	97.1%	240	101.1%
第1四半期	1,960	99.9%	14	98.4%	1,946	99.9%	1,019	98.9%	927	100.9%
第2四半期	1,842	98.1%	14	98.1%	1,828	98.1%	1,014	97.4%	814	99.1%
上期	3,803	99.0%	29	98.3%	3,774	99.0%	2,033	98.2%	1,741	100.0%

#### 【用途別処理量の見通し】

直近5月までの実績においては、生乳供給量が前年度を上回って推移したことから、乳製品向処理量も前年度を上回って推移した。

今後は、牛乳等向処理量が引き続き前年度を下回って推移するものの、生乳供給量も前年度を下回ると見込まれることから、これまで前年度をやや上回って推移してきた乳製品向処理量についても、第2四半期は前年度をやや下回るものと見込まれる。

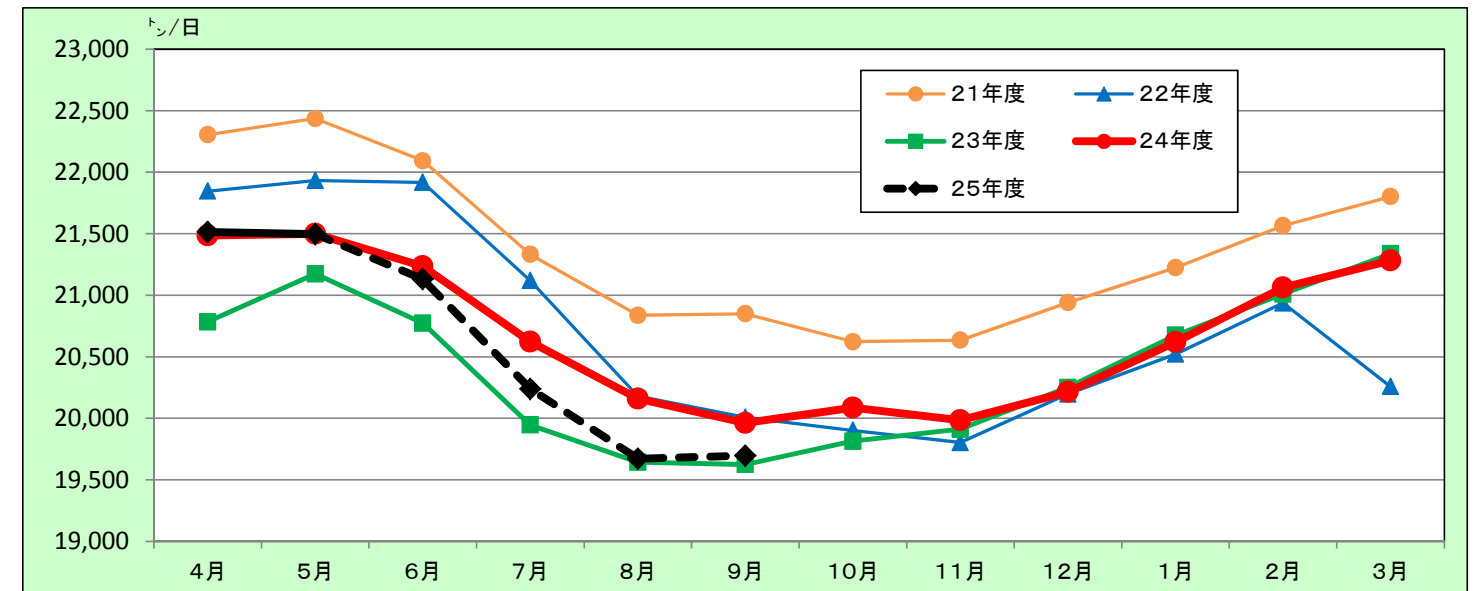
■前回5月公表時の予測との差異（上期計）は下記のとおり。

「生乳供給量」：▲23千t（前年比 ▲0.6%）、

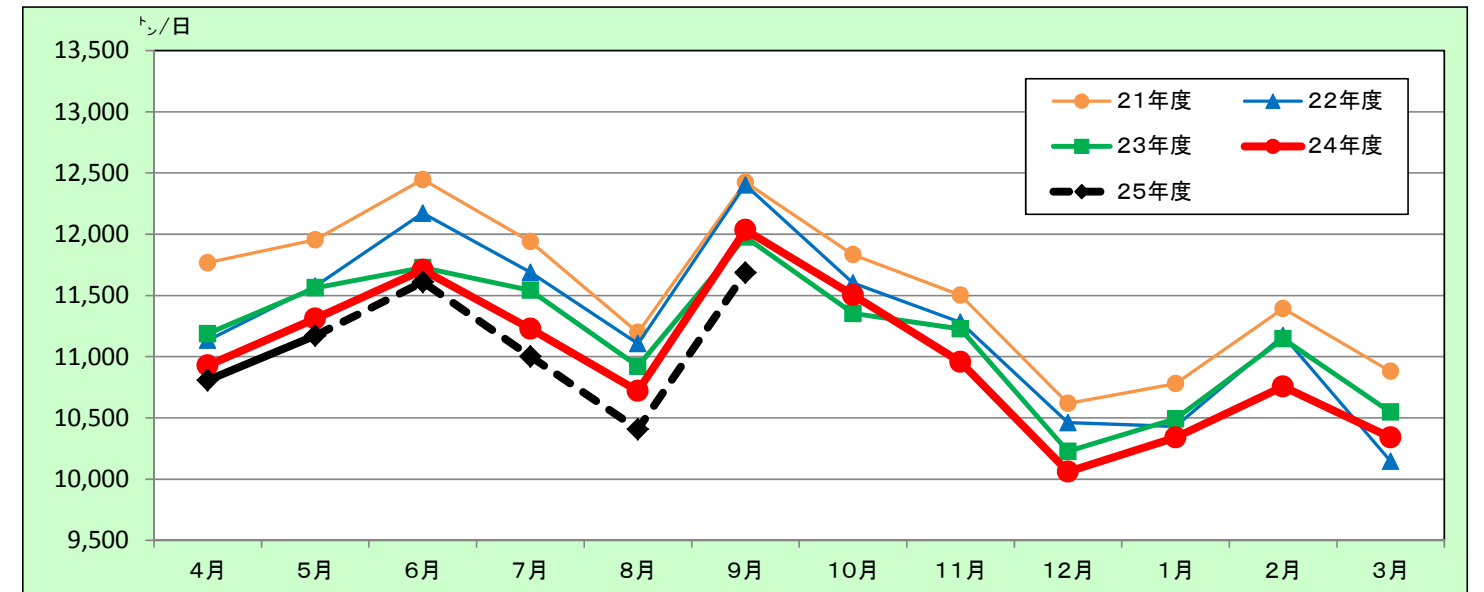
「牛乳等向処理量」：▲10千トン（前年比 ▲0.5%）、

「乳製品向処理量」：▲13千t（前年比 ▲0.8%）

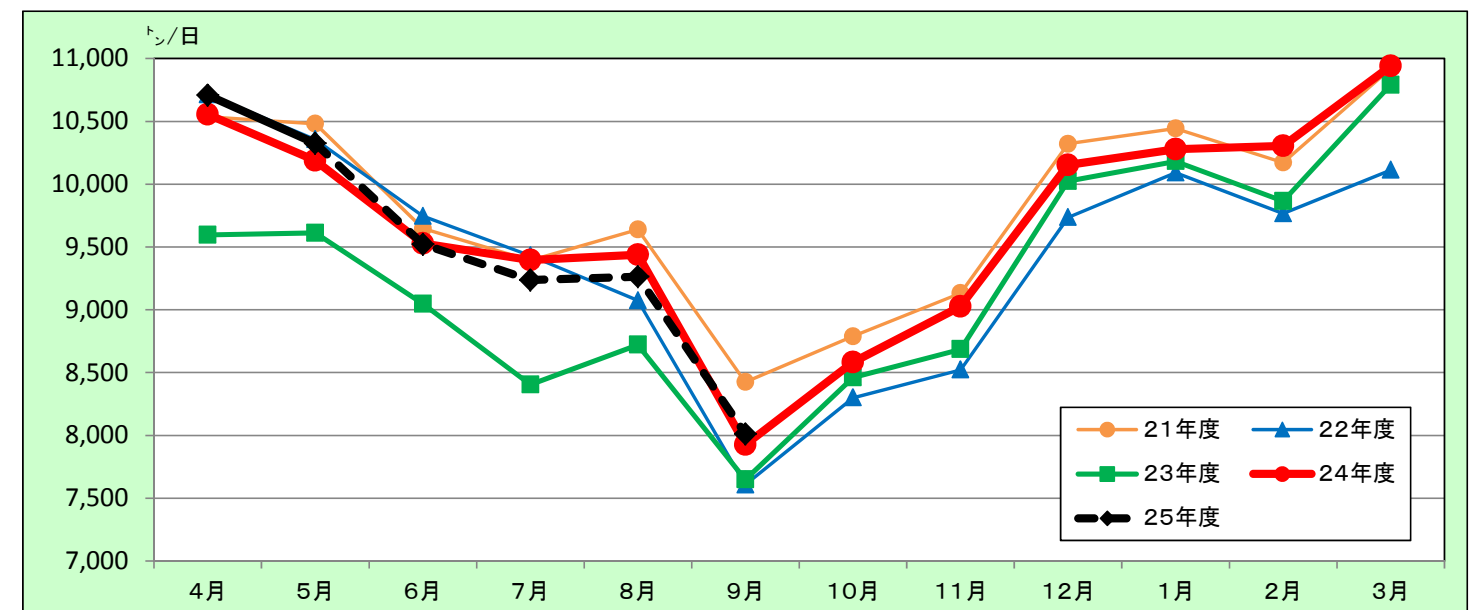
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



#### 4. 都府県の生乳需給の動向

##### 【都府県生乳需給予測の前提】

・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出。

・「移入量」は、下記2点の基本的考え方にに基づき設定。

- ① 都府県で製造する北海道ブランド牛乳のために、必要な移入量は必ず発生するものとして設定。
- ② 生乳需給上、ある程度の特定乳製品向処理量は必ず発生するものとして設定。

表4：平成25年度上期 都府県の生乳需給（見通し）

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比		前年比	
	4月	319	99.3%	281	98.9%	13		85.4%	25		19	94.0%
5月	326	99.0%	302	99.2%	14	95.6%	10	21	96.7%		31	97.6%
6月	303	98.2%	304	99.5%	14	93.5%	-14	29	98.9%		16	90.1%
7月	294	96.7%	295	97.9%	15	97.6%	-16	33	101.0%		17	85.0%
8月	282	95.9%	276	96.9%	16	97.8%	-11	32	102.5%		21	91.2%
9月	273	96.5%	304	97.0%	14	97.7%	-44	52	100.6%		7	100.0%
第1四半期	948	98.8%	886	99.2%	40	91.3%	21	69	96.9%		91	99.0%
第2四半期	849	96.4%	875	97.3%	45	97.7%	-71	116	101.3%		45	90.0%
上期	1,797	97.6%	1,762	98.2%	85	94.6%	-50	185	99.6%		136	95.8%

##### 【都府県の生乳需給の見通し】

25年度上期における都府県の需給は、生乳供給量及び牛乳等向処理量いずれも前年度を下回って推移すると見込まれる。こうしたなかで、今後、第2四半期においては、北海道から都府県への生乳移入量（道外移出量）は、前年度をやや上回る水準で推移するものと見込まれる。

#### 5. 特定乳製品需給の動向

##### 【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

・特定乳製品向処理見込数量は、乳製品向処理量からその他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理見込数量を差し引いて算出。

・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。

・脱脂粉乳・バターの消費量は、過去の実績データの動向パターンに基づく、価格や代替関係にある乳製品の処理見込数量等を変数に組み込んだ予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。

・乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一ヶ月平均の消費量で割ることで算出している。

表5：平成25年度上期 脱脂粉乳の需給（見通し）

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
	4月	13.8		103.8%	0.0		12.2	95.9%	1.6
5月	13.1	103.8%	3.0	13.9	111.5%	2.2	53.2	4.6	110.2%
6月	10.7	103.2%	0.2	11.7	102.0%	-0.8	52.3	4.5	111.1%
7月	10.2	97.7%	1.8	12.7	100.4%	-0.7	51.6	4.4	114.9%
8月	10.2	95.9%	0.0	12.6	102.1%	-2.4	49.2	4.2	113.9%
9月	7.9	102.8%		12.3	110.6%	-4.4	44.8	3.8	112.7%
第1四半期	37.6	103.6%	3.2	37.9	103.1%	2.9	52.3	4.5	111.1%
第2四半期	28.3	98.4%	1.8	37.6	104.1%	-7.6	44.8	3.8	112.7%
上期	65.8	101.3%	5.0	75.5	103.6%	-4.7	44.8	3.8	112.7%

表6：平成25年度上期 バターの需給（見通し）

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
	4月	7.0		104.1%			6.1	95.8%	0.9
5月	7.0	107.1%		5.5	87.0%	1.5	25.8	4.1	123.7%
6月	5.7	103.4%		5.7	83.8%	-0.0	25.8	4.1	120.2%
7月	5.3	98.0%		6.0	96.8%	-0.7	25.2	4.0	117.1%
8月	5.4	96.2%		5.7	95.4%	-0.3	24.9	4.0	112.8%
9月	3.8	103.2%		5.8	99.8%	-2.0	22.9	3.7	102.8%
第1四半期	19.7	104.9%		17.3	88.7%	2.3	25.8	4.1	120.2%
第2四半期	14.5	98.6%		17.5	97.3%	-2.9	22.9	3.7	102.8%
上期	34.2	102.2%		34.8	92.9%	-0.6	22.9	3.7	102.8%

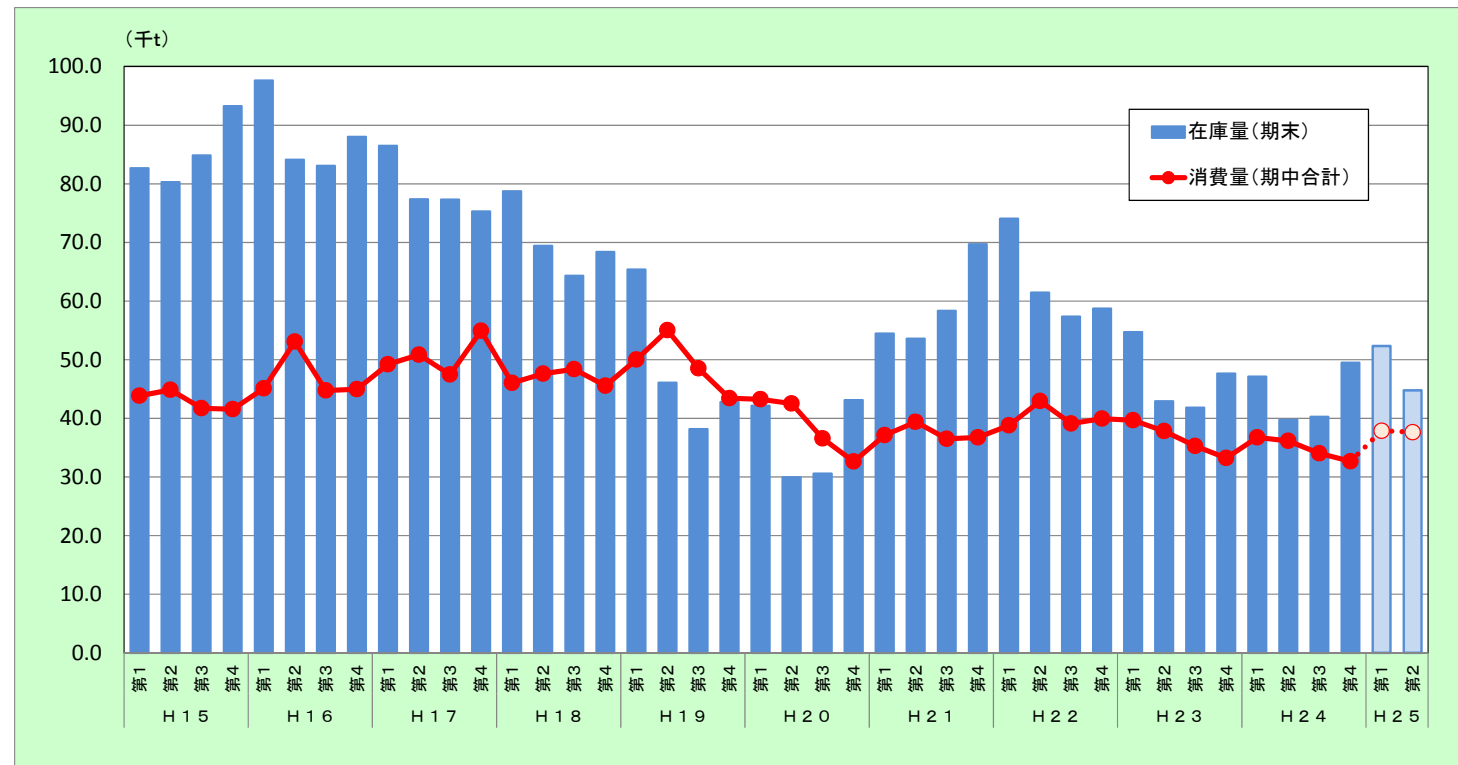
##### 【特定乳製品(脱脂粉乳・バター)需給の見通し】

脱脂粉乳については、25年度のカレントアクセス分輸入数量として上期中に5千トンが売り渡されることもあり、今後も前年度を上回る在庫水準で推移するものと見込まれる。なお、25年度上期末における在庫量は、前回5月時点の見通しからほぼ変わらず、44.8千トン(3.8か月分)と見込まれる。

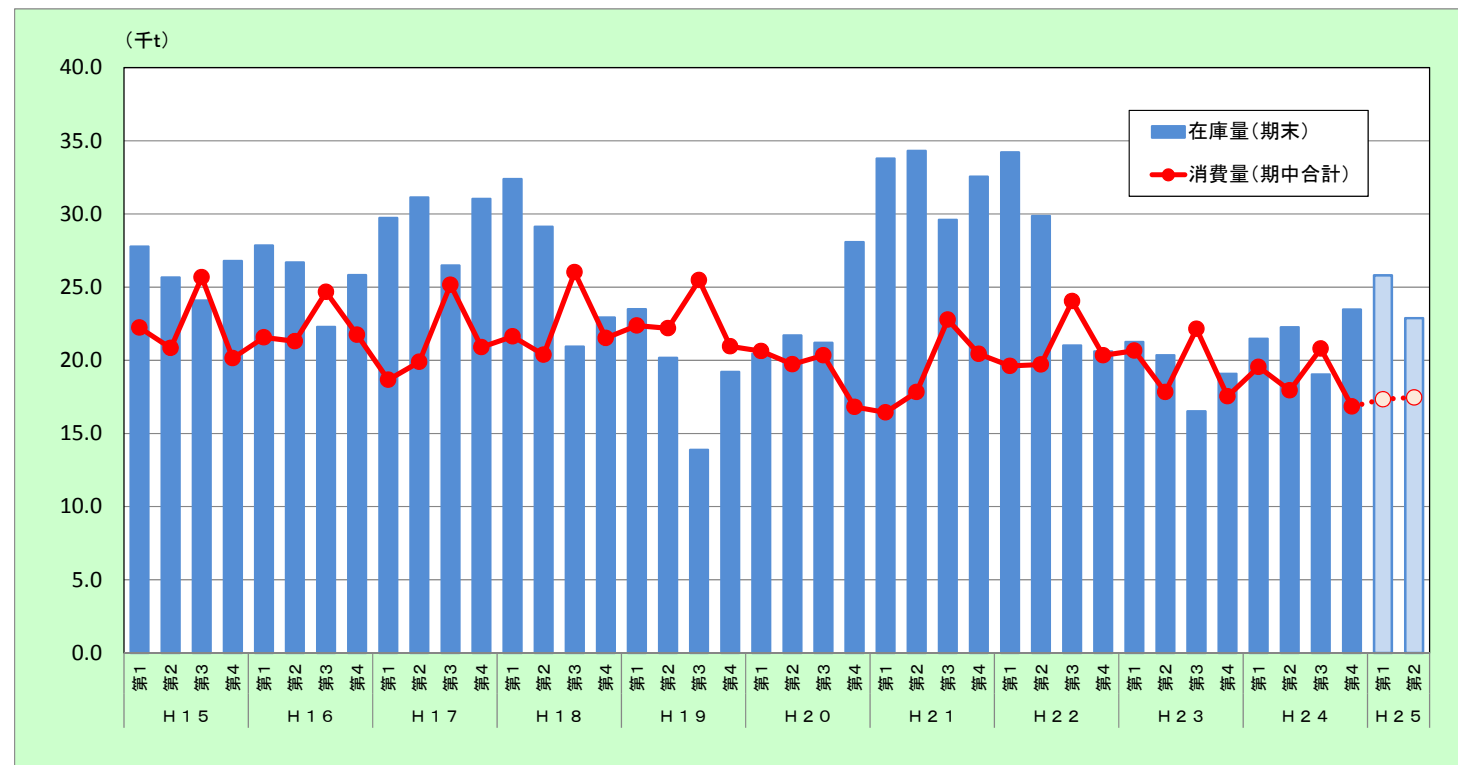
バターについては、脱脂粉乳同様、今後も前年度を上回る在庫水準で推移するものと見込まれる。なお、25年度上期末における在庫量は、消費量が前回5月時点の見通しをやや下回っていることから、やや積み増しの22.9千トン(3.7か月分)と見込まれる。

また、特定乳製品需給は、生乳供給量や牛乳等需要の動向に生産量が大きく左右されるとともに、需要量についても調製品を含めた海外市場や国内外の景気動向等の影響を強く受けることから、今後も酪農乳業関係者全体でその動向を注視していくとともに、適切な対応を図っていくことが求められる。

グラフ5：脱脂粉乳の消費量及び在庫量（四半期毎）



グラフ6：バター消費量及び在庫量（四半期毎）



6. 当面する課題と対応について

(1) 夏季の需要期に向けた生乳生産量確保のための取り組み

生乳生産量は、北海道・都府県ともに前年度を下回って推移することが見込まれることに加え、7月に入って暑い日が続いた地域が多いことや、今夏にあつては全国的に暑い日が多くなるといった予報も出されていることから、今後の気温や天候等によっては、特に夏季において、本予測以上に生乳供給量が低下し、一方牛乳等需要が増加することにより、一時的に需給が逼迫する可能性もある。

こうしたことから、酪農生産者及び関係者は、引き続き生乳生産動向を注視していく必要があるとともに、これから夏季を迎えるにあたっては特に、暑熱対策や飼養管理対策を徹底し、生乳生産量の低下を最小限に留めるように努めることが重要である。

(2) 的確な需給調整対応の実施

本予測においては、北海道からの生乳移入量（道外移出量）は前年度をやや上回る程度であるが、前述のように、生乳生産量及び牛乳等需要は大きく変動する可能性があることから、生乳需給は楽観視できない。

特に9月上旬の学乳開始に伴う飲用最需要期においては、短期的に生乳需給が逼迫する可能性もあることから、酪農乳業関係者は、広域生乳の需給調整が円滑に行われるよう、日々の需給動向に注視するとともに、情報の共有化・適切な情報発信に努め、木目細かい対応を図っていく必要がある。